

新たなステージの幕開け ～下関・青島友好都市締結40周年記念～

下関市総合政策部国際課

主任主事 和木田 真功

先月10月26日に青島市との友好都市締結40周年記念式典及び記念公演を本市で開催しました。本号ではその際の様子をご紹介します。

市長・議長表敬訪問

式典に参加するため、青島市人民代表大会常務委員会 張錫君副主任をはじめとする訪問団が市長と議長を表敬訪問しました。表敬訪問の場では、両市が共に力を入れているクルーズ面や観光振興の今後の連携について意見交換が行われました。表敬の場には、中華人民共和国駐福岡総領事館 何振良総領事も同席されました。

友情の花が末永く咲き誇ることを祈念して

表敬を終え、唐戸市場のすぐ横の姉妹都市ひろばの一角にて、40周年記念植樹が行われました。植樹では、中国原産のカンヒザクラが植えられ、両市の友情の花が末永く咲き誇るようにとの願いが込められました。

新たなステージの幕開け

記念植樹を終え、いよいよ場面は記念式典と記念公演へと移ります。会場となる生涯学習プラザにはおよそ500人の観客が押し寄せました。エントランスホールでは、これまでの両市の交流の歴史を振り返るパネルが展示されました。

記念式典の冒頭、市長は挨拶の中で、「40周年を新たなスタートとし、両市の交流を一段高いステージに押し上げていきたい」と述べ、張副主任からは「新しい分野での協力を開拓し、次の10年にまい進しよう」と応えられました。

記念品の交換では、下関側からは市内在住の画家・宇田孝峰氏による両市を代表するシンボルが描かれた絵画が送られ、青島側からは単継宏氏による掛け軸が送られました。

式典を終え、記念公演では、下関少年少女合唱隊が友好都市締結30周年の際に作成した友好の歌「君がいる…」などを披露しました。日本語の歌詞で歌い出して、途中から中国語の歌詞に変わるなど来場した多くの人々を透き通った歌声で魅了していました。

続いて、青島市文化芸術団による伝統舞踊や、中国の伝統楽器・古箏と書の協演などが披露されました。両市からの歌や舞踊の披露により、まさに両市の友好都市締結40年の友情に華を添えて頂きました。

記念式典を終えて・・・

記念式典・記念公演を無事に終え、祝賀会が行われました。祝賀会では、長年両市の交流に尽力された下関市日中友好協会 金田満男会長に市長から感謝状が授与されました。金田会長はスピーチの中で、友好都市締結からこれまでの歴史を振り返りました。御年94歳というご高齢でありながら、両市の友好交流の生き証人としてのスピーチは、その場に居合わせた多くの人の胸を打ち、中には涙を流す人もいました。

先人の皆様の様々な努力があり、今年両市は無事40周年を迎えることができました。これまでの感謝を忘れず、次なる5年、10年へとバトンを繋いでいきたいと思えます。